

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社エスエイサービス
事業所名	グループホーム恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の声をよく聞き、日頃の状態観察や表情観察にて気づきを持てるようスタッフ全員が意識しています。指示、アドバイスにも素直に応じ、利用者様の思いや、ご家族の思い、立場を理解し、相談に応じられるよう努めております。利用者様のできること、できないこと、できそうなことありますが、できることに関しては継続していこうという意識、できないことに関しては悪化防止、できそうなことに関しては一緒にチャレンジしていこうという意識で関わりをもっております。スタッフ全員に専門的な知識があるわけではないですが、勉強会や委員会の中で、統一したケア、利用者様、ご家族様の求めるケアができるよう情報の共有、周知、徹底し利用者様の喜ぶ顔、ご家族様の安心につながるケアをという気持ちで支援させていただいています。どなたでも、相談、訪問しやすい環境づくりを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では1階のホールを使用して七夕会やクリスマス会などのイベントを3ユニット合同で開催したり、大型バスなどを借りて毎月外出計画を立て花見に出かけるなど、理念を基にした利用者の笑顔ある日々の暮らしを支えている。管理者と職員は利用者の思いを大切に、利用者一人ひとりのできることや要望に沿った支援を心がけている。事業所には、小学生の職場体験や保育園児のお遊戯、歌や踊り等のボランティアの訪問があり、利用者は交流を楽しみにしている。職員がテーマを決めて毎月勉強会を開催したり、外部研修に参加したりしてサービスの向上に努めている。また、利用者の希望するかかりつけ医と連携を取った支援をしており、医療面での迅速な対応にも心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム恵須栄

(ユニット名) 恵ユニット

記入者(管理者)

氏 名 上野 こずえ

評価完了日 平成 26 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 経験の少ない職員も多く十分とは言えない面もあるが職員会、各委員会、処遇会等で理念を共有出来るように話し合い、実践の向上に努めている。 (外部評価) 理念は開設時に作成し、事業所名の「エスエイ」を頭文字にして分かりやすい言葉で表している。ホールの来所者からも見やすい場所に掲示し、ミーティングなどで職員間で話し合いをしている。管理者と職員は理念を共有して利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 敬老会や、地域の運動会等招待頂く時は参加している。屋外散歩時、挨拶交わし、会話が弾む時もあります。また職員が通勤時、施設の事について質問受ける時もあり、その時は、出来るだけわかりやすく説明させていただきます。 (外部評価) 近所を散歩する機会が多く、地域住民と挨拶を交わしている。小学生の職場体験を受け入れたり、保育園児の訪問によるお遊戯を利用者は楽しみにしている。小学校の運動会や敬老会にも利用者と一緒に参加している。秋祭りには神輿や獅子舞の訪問もあり交流をしている。歌や踊り、銭太鼓、フラダンス、編み物など多様なボランティアの受け入れもしている。	利用者が地域の中で暮らしていくためには、地域との交流は大切なことであり、公民館等からも地域の情報を多く得て、地域行事等に積極的に参加しさらに交流を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 施設見学や入所の為に来られた方より相談あれば、説明させていただいたり、助言させていただいています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ご利用者の状況報告や、屋内外の行事について報告は度々しているが、サービス向上に活用できる所までには至っていない。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、介護相談員、病院相談員、地域包括支援センターの職員等の参加を得て開催している。会議は事業所の状況や行事報告を行うほか、質疑応答をしている。会議のテーマは決めず、参加者の意見を聞くよう心がけており、家族から出された質問等に答えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 西条市介護支援専門連絡会、西条市介護サービス向上連絡会などに参加し新しい制度やサービスなどの理解に努めている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、提案や助言をしてもらっている。相談がある場合は電話やメールで気軽に問い合わせるなど連携をしている。市主催の介護支援専門員連絡会の研修や会議に参加し情報を得ている。また、月1回介護相談員が訪問し、利用者の話や相談に応じている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は自由に出入り出来るようになっている。ご利用者が気分転換や外の景色を見に出られる時は、そっと見守りをしたり、必要と思われる時は寄り添い、話をしたりして、楽しく過ごせるように心がけている。	
			(外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルがあり、職員がテーマを決め毎月勉強会を実施している。年1回身体拘束のテーマを取り上げて行うほか、外部研修に参加し職員に伝達するなど、理解して身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はせず、利用者は自由に出入りすることができる。外出しようとする利用者には他の利用者が話しかけてくれたり、職員が見守りをして対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴介助時、トイレ介助時等、皮下出血やあざなどがな いか等確認し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員会の時、勉強会を実施し、話し合う機会を持っ ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者とユニットリーダーが対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会で話し合う機会を設けている。またホームページにも行事等公開しているが、運営に結びつく要望や意見はほとんど聞かれていない様に思われる。	
			(外部評価) 訪問時や運営推進会議等を利用して家族から意見を聞いている。利用者の健康状態を電話で報告し、意見を聞いたり相談をすることもある。出された意見は職員間で話し合い迅速に対応している。対応できない内容は管理者から代表者に伝えている。恵須栄便りを2か月に1回発行し、利用者の日々の暮らしを伝え、家族から行事の問い合わせもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会や処遇会時、提案や意見を聞く機会を設けている。主にご利用者の対応時、反映している。 (外部評価) 管理者は職員が話しやすい環境づくりに努めている。ユニット内のミーティングでリーダーに意見を伝え、職員間で話し合いを行い、必要に応じてユニットリーダー会など管理者や代表者に伝える仕組みができている。また、事業所内には安全環境委員会と接遇委員会等があり、職員間で意見を出し合っている。職員は事業所負担で外部研修に参加することができ、職員会議で研修報告をしている。また、自主的に研修に参加する職員もあり、スキルアップとサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価表、能力手当支給判断表、ユニット評価表を月1回提出している。それを元に、反映していると思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の機会の資料の提供あり、希望スタッフには積極的参加をすすめている。職員会時も、題を決め、能力アップとなるように勉強会を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 年に1回程度、他グループホームより招待頂いており、スタッフと数名のご利用者に参加していただいて交流し、サービス向上の参考としている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様にも協力を仰いだり、入所時の資料を参考に、スタッフ間で協力し合いながら実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) スタッフ間で情報細目に交換しながらしている。面会時 に状況報告しながら、良い関係を構築している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談する家族の立場を考慮しながら、良い関係となるよ うに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) スタッフ間で情報細目に交換しながらしている。面会時 に状況報告しながら、良い関係の構築となるように努めて いる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者の日常状況を共有して頂き、スタッフでは誤解 を招きかねない事などは、ご家族にも協力を仰いでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご利用者の知人等の面会の希望有る時は、積極的に対応 している。ご利用者の居室でゆっくり出来るようお茶な どお出し努めている。 (外部評価) 知人や友人の訪問は少ないが、快い対応をしている。家族 と個別に外出する利用者多く、お墓参りに出かけたり馴染 みの店に買い物等に行ったりしている。月1回美容室の訪 問があり、馴染みの関係ができています。事業所内のイベン トは3ユニット合同で行うことが多く、利用者同士の新し い馴染みの関係ができてきています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーション、ラジオ体操、施設行事等に参加して頂き、話しをしたり理解し合う機会としている。食事の時	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 相談や支援の要請あれば、可能な限り、応じていきたいと考えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントチェック表より、また日々の話や、仕草などより、状況把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員を決め、日々の暮らしの中で利用者の思いや意向を聞くよう努めている。思いを言い表すことが難しい利用者には、家族から情報を聞いたり表情や行動から判断するようにしている。新たに得た情報は申し送り事項にメモを残し、職員の押印で確認し情報を共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ケアプラン見直し時のアセスメントや、本人よりの話、家族や知人の面会時に状況を聞いたりして、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントやケアプラン、また日々の様子観察より現状把握につとめている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回の処遇会、ケアプラン作成時のアセスメント、サービス担当者会議等で話し合い、反映させている。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映し、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。利用者の健康状態や介護計画の変更がある場合には、家族と電話等で話し合いその都度介護計画を変更している。介護計画に沿った日々の実践記録を残し、利用者毎の担当者が月1回モニタリングをしている。利用者の状況はユニット間で共有して支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々あった事、変わった事等細かく記録している。また、その都度スタッフ間で申し送り、本人に会うよう工夫し実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 決まっているサービスの他、その方に必要であるサービスを考えながら行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 家族様、知人、近所の方が面会に来られたり、家族様と外出されたりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月1回の定期往診あり。定期往診に該当しない方は、家 族の協力仰ぎ受診している。歯科治療等、必要時は、家族 と相談しながら往診していただいている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を家族の協力を得 て継続して受診することができる。定期的にかかりつけ医 に往診をしてもらう利用者もあり、一人ひとりのかかりつ け医と連携が取れている。職員は利用者の健康状態を把握 して看護師に報告や相談を行い、家族に早めの連絡を心が けている。また、急変時には救急車を呼び職員が同行して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 度々報告や相談をし、対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 運営推進会にケアワーカーに出席して頂いている。入院 時、退院時には、ケアワーカーと情報交換をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) リーダー、管理者より、家族に報告、相談している。 (外部評価) 「看取りの指針等」の作成はしていない。入居時に事業所 として対応できる内容を伝え、口からものを食べれなく なった場合や医療処置が必要な場合は、入居の継続が難し いことを利用者と家族に説明している。利用者の状態の変 化に応じて家族等と話し合い、対応することとしている。 事業所での看取りを希望する利用者や家族は少なく、医療 処置が必要となった場合は、入院を希望する家族が多い。 また、他の施設に移る場合は、相談に応じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 月1回の勉強会にて、病気、事故等の研修を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災訓練を受け、又消防署からの、消火活動の実践も受け対応している。 (外部評価) 年2回、昼間や夜間の火災や地震を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力とアドバイスももらっている。地域住民には災害時の協力を継続してお願いしており、運営推進会議に近隣住民と民生委員が参加してもらえるようになったことから、協力を得られるようになった。地域の自主防災組織との連携は取れていない。前回の外部評価から、外の階段を増設し避難経路づくりをしている。	建物の構造上、夜間など職員だけでの避難誘導には困難や限界があるが、今後、事業所のリフォームを行う予定である。リフォームの際は専門家からアドバイスをもらったり、職員間で話し合ったりするなど、利用者の安心安全な暮らしを守るための改修に繋がることを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に一人の大人として尊敬し、言葉使いにも気を付けている。 (外部評価) 利用者と個別の会話をする場合は、居室で1対1で話しをしている。日中はホールで過ごす利用者が多く、職員は利用者への声かけやトイレへの誘導などに気を付けて支援している。居室入口のドアには利用者の様子が確認しやすいよう透明なガラス小窓があるが、利用者からカーテン等をしてほしい希望は出されていない。事業所には接遇委員会があり、気になることは定期的に話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己表現の上手に出来ない利用者には、常に視線を一緒にし、言葉と心のヒアリングに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎日が利用者様であって、職員やホームの都合にて状況が変化する事が多々あるが、常に環境に順応して利用者優先を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれの支援と言うよりは、利用者が暮らしやすい機能性を重視している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事準備や配膳等については、限りある材料の中で、赤、緑、黄とか食欲をそそる色合いと器等で利用者に提供している。 (外部評価) 主菜と副菜は外注し、事業所内でごはんと汁物を調理している。半年前から毎月の誕生会や行事等に合わせて利用者の希望を聞き、事業所内で職員が食事を手づくりするようになった。職員は利用者と同じテーブルを囲み会話をしながら食事している。利用者は後片付けなど、できることを一緒に手伝っている。また、外食を取り入れたり利用者と一緒にたこ焼きづくりをしたりするなど、食事が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 専門的な栄養等は難しく知識がないが、日々利用者の生活と食の摂取量の状況を把握し対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 日常生活がほぼ自立できている方には、食事後声掛けを行っている。利用者を信頼している部分が大きいに思われる。介助が必要な方には度々行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者のADLを重視し、ケアプランに沿ったケアに努めている。また、スタッフ連携を取り、意欲の湧く声掛けに努めている。 (外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、利用者に合わせた支援をしている。状態に応じて、夜間にはポータブルトイレやパットを使用している利用者もいる。夜間パット等をしている利用者にも、昼間はトイレ誘導を心がけている。1階の居室にはトイレが設置され、中にはカーテンを付けている。また、夜間に眠剤を飲んでいる利用者もいるが、時間毎に訪室し個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の排泄パターンをほぼ把握し、声掛けやトイレ誘導を実施している。水分補給や、適度な運動を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間や曜日については、柔軟な対応は出来ていない。が、7月、8月、9月は週3回入浴していただいている。 (外部評価) 夏は週3回、冬は週2回を基本として入浴できるよう支援している。散髪した利用者はその日に入浴してもらっている。利用者の羞恥心などに配慮し、同性介助を基本としている。湯船に利用者が浸かりやすいよう手すりを付け、安心して入浴してもらう工夫をしている。また、入浴が苦手な利用者には無理強いせず、時間をずらして声かけをしたり入浴日を変更したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の希望を極力重視し、出来る事は対応している。午前中の屋外散歩、庭先での日光浴をしていただいたり、ラジオ体操、レクリエーションで身体を動かして頂いたりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情報や、薬手帳を常時確認し、変わった時は日誌等に記載し、又ミーティング時、申し送りしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々にあった支援行えている。例えば、食器拭き、洗濯物たため、塗り絵等。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族に受診以外の外出をお願いしているが、ほとんど行っていない。 (外部評価) 天気の良い日は午前と午後の2回散歩に出かけ、近所の庭の花などを見て気分転換をしている。季節に応じて、花見や紫陽花祭り、外食を兼ねた湯ノ浦へのバスツアー、糸山公園などに家族の協力を得て出かけられるよう支援している。また、家族と一緒に買い物や外食などを楽しんでいる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は事務所や、家族対応となっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 心地よく過ごせるように、努めている。	
			(外部評価) 共用のホールには季節を感じられる花や飾りつけをしている。1階と2階のユニット毎のホールの広さは違っているが、家具などの配置を工夫するなど利用者が過ごしやすい空間づくりをしている。利用者は好みの場所でゆっくりくつろいでいる。また、1階のホールでは、3ユニット合同でイベントを行うことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブルの配置を工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 誕生月のお祝いの色紙や、孫や家族の写真を飾ったり、利用者が制作した塗り絵などを居室に飾っている。	
			(外部評価) 1階にある居室はトイレもあり広く、夫婦で入居している利用者もいる。2階には2ユニットあるため1階にある部屋より狭くなっている。居室には自宅から馴染みの家具や使い慣れたものを持ち込んでいる。壁には写真や利用者自身で作成した作品を飾るなど、一人ひとりに合わせた過ごしやすい空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のADLを重視し、ケアプランに沿ったケアに努めている。また、スタッフ連携取り、意欲の湧く声掛けに努めている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社エスエイサービス
事業所名	グループホーム恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の声をよく聞き、日頃の状態観察や表情観察にて気づきを持てるようスタッフ全員が意識しています。指示、アドバイスにも素直に応じ、利用者様の思いや、ご家族の思い、立場を理解し、相談に応じられるよう努めております。利用者様のできること、できないこと、できそうなことありますが、できることに関しては継続していこうという意識、できないことに関しては悪化防止、できそうなことに関しては一緒にチャレンジしていこうという意識で関わりをもっております。スタッフ全員に専門的な知識があるわけではないですが、勉強会や委員会の中で、統一したケア、利用者様、ご家族様の求めるケアができるよう情報の共有、周知、徹底し利用者様の喜ぶ顔、ご家族様の安心につながるケアをという気持ちで支援させていただいています。どなたでも、相談、訪問しやすい環境づくりを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では1階のホールを使用して七夕会やクリスマス会などのイベントを3ユニット合同で開催したり、大型バスなどを借りて毎月外出計画を立て花見に出かけるなど、理念を基にした利用者の笑顔ある日々の暮らしを支えている。管理者と職員は利用者の思いを大切に、利用者一人ひとりのできることや要望に沿った支援を心がけている。事業所には、小学生の職場体験や保育園児のお遊戯、歌や踊り等のボランティアの訪問があり、利用者は交流を楽しみにしている。職員がテーマを決めて毎月勉強会を開催したり、外部研修に参加したりしてサービスの向上に努めている。また、利用者の希望するかかりつけ医と連携を取った支援をしており、医療面での迅速な対応にも心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム恵須栄

(ユニット名) 寿ユニット

記入者(管理者)

氏 名 上野 こずえ

評価完了日 平成 26 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者様が幸せな気持ちで健康に毎日笑って過ごせる様な事業所をめざして職員と管理者は実践につないでいると思う。 (外部評価) 理念は開設時に作成し、事業所名の「エスエイ」を頭文字にして分かりやすい言葉で表している。ホールの来所者からも見やすい場所に掲示し、ミーティングなどで職員間で話し合いをしている。管理者と職員は理念を共有して利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の地域の行事である敬老会や運動会やお祭りなどにお招き頂き利用者様が参加されそこで地域の人と交流出来ている。 (外部評価) 近所を散歩する機会が多く、地域住民と挨拶を交わしている。小学生の職場体験を受け入れたり、保育園児の訪問によるお遊戯を利用者は楽しみにしている。小学校の運動会や敬老会にも利用者と一緒に参加している。秋祭りには神輿や獅子舞の訪問もあり交流をしている。歌や踊り、銭太鼓、フラダンス、編み物など多様なボランティアの受け入れもしている。	利用者が地域の中で暮らしていくためには、地域との交流は大切なことであり、公民館等からも地域の情報を多く得て、地域行事等に積極的に参加しさらに交流を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 家族様を通して認知症の人の理解を深めてもらいそれを地域の人に対してもつなげていくように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回運営推進会議を開催しそこで利用者様への現 在のサービス等や行事など家族様に報告がなされていてそ こで家族様からのご意見も伺いサービス向上にいかせてい る。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、介護相談員、病 院相談員、地域包括支援センターの職員等の参加を得て開 催している。会議は事業所の状況や行事報告を行うほか、 質疑応答をしている。会議のテーマは決めず、参加者の意 見を聞くよう心がけており、家族から出された質問等に答 えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加をしてもらいサービスに取り入れる 等、市町村担当者に相談している。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、提案や助言をしても らっている。相談がある場合は電話やメールで気軽に問い 合せるなど連携をしている。市主催の介護支援専門員連絡 会の研修や会議に参加し情報を得ている。また、月1回介 護相談員が訪問し、利用者の話や相談に応じている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束において現在特別な事情のある場合を除きしては いけないし、していません。	
			(外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルがあり、職員がテーマを決め 毎月勉強会を実施している。年1回身体拘束のテーマを取 り上げて行うほか、外部研修に参加し職員に伝達するな ど、理解して身体拘束をしないケアを実践している。玄関 の施錠はせず、利用者は自由に出入りすることができる。 外出しようとする利用者には他の利用者が話しかけてくれ たり、職員が見守りをして対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 以前利用者様の中には自宅で虐待されていたのではないかと 思われる方がみられたが最近はほとんど見受けられませ ん。事業所において虐待はあつてはならない事ですので最 善の注意をはらいたいとおもいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会において学ぶ事があり現在成年後見制度を利用され ている利用者もおられます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結や解約において家族様の要望や疑問な点につい てよく話し合い説明もし理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員並びに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	(自己評価) 家族様の意見や要望等運営推進委員会において話して頂き 運営に反映できている。	
			(外部評価) 訪問時や運営推進会議等を利用して家族から意見を聞いて いる。利用者の健康状態を電話で報告し、意見を聞いたり 相談をすることもある。出された意見は職員間で話し合い 迅速に対応している。対応できない内容は管理者から代表 者に伝えている。恵須栄便りを2か月に1回発行し、利用 者の日々の暮らしを伝え、家族から行事の問い合わせもあ る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の勉強会において職員や管理者は意見交換し提案を運営にいかしている。 (外部評価) 管理者は職員が話しやすい環境づくりに努めている。ユニット内のミーティングでリーダーに意見を伝え、職員間で話し合いを行い、必要に応じてユニットリーダー会など管理者や代表者に伝える仕組みができています。また、事業所内には安全環境委員会と接遇委員会等があり、職員間で意見を出し合っている。職員は事業所負担で外部研修に参加することができ、職員会議で研修報告をしている。また、自主的に研修に参加する職員もおり、スキルアップとサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力や実績・勤務状況を把握できていて給与に結びついている。労働時間も守られているので身体的にあまり無理はないと思う。各自の向上心は人により違いはあると思う。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ケアの実践と力量によって社内外の研修の機会をふやして実力を身に付ける場を自分自身でも設けるが事業所も機会を増やして欲しいと思う。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 毎年他の事業者と交流する機会があるがもう少し機会がある方が事業所に生かせるが増えると思う。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期には本人の不安も大きいので良くお話しして頂くようにして安心してもらえる様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 常に家族様の立場になって考え家族様の話しに耳を傾け本 人様の意思も尊重しながら努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 初期対応としてまず安心して頂ける環境作りをし徐々に馴 染んで頂き段階的な支援の工夫サービスの利用が行える様 に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 毎日、関わって行く中で、利用者様に安心感を与え、気持 ち良く過ごして頂ける様に心がけている。何でも話して頂 けるよう、信頼関係が持てる様時間を掛けて関わってい る。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様と利用者様がより良い関係を築けるように支援する ことが大事であるので、家族様に気軽に足を運んで頂ける ような施設である様に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 利用者様が友人と会ったり、行きつけの場所などに出かけ るというのは、家族様の協力なしでは難しい問題であり、 実際出来ていないが、知り合いの方が面会にこられ、楽し い時間を過ごす事ができている。 (外部評価) 知人や友人の訪問は少ないが、快い対応をしている。家族 と個別に外出する利用者多く、お墓参りに出かけたり馴染 みの店に買い物等に行ったりしている。月1回美容室の訪 問があり、馴染みの関係ができています。事業所内のイベン トは3ユニット合同で行うことが多く、利用者同士の新し い馴染みの関係ができてきています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションなど、他の利用者様と関わる機会も多く、孤立する事はないように思う。トラブルになりそうになると、職員が声掛けすることで、話をそらせたり、うまくやれている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了したとしても、家族様利用者様から相談などがあれば、出来るだけ力になれるように努めたいと思っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりが、気持ち良く過ごせるように、利用者様の希望、意向などを聞き、かなえる事が困難な場合でも、それに近づけるように工夫していきたい。 (外部評価) 利用者毎の担当職員を決め、日々の暮らしの中で利用者の思いや意向を聞くよう努めている。思いを言い表すことが難しい利用者には、家族から情報を聞いたり表情や行動から判断するようにしている。新たに得た情報は申し送り事項にメモを残し、職員の押印で確認し情報を共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 施設での馴染みの暮らしというのは難しいが利用者様が、自分らしく暮らしていけるように生活環境を整えていけるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様の心身状態、過ごし方など職員全員が把握出来る様、申し送りをしっかり行い、利用者様を知る為ゆっくり話す時間を大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々、利用者様の变化に目を向け、職員がきづいたことを話し合い、家族様の要望や変化に応じ、介護計画を見直したりしている。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映し、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。利用者の健康状態や介護計画の変更がある場合には、家族と電話等で話し合いその都度介護計画を変更している。介護計画に沿った日々の実践記録を残し、利用者毎の担当者が月1回モニタリングをしている。利用者の状況はユニット間で共有して支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様に変化があれば、必ず記録し職員間で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様の状況に応じて、臨機応変に支援出来る様、考え取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的に、民生委員の方が来て下さり、いろいろなボランティアの方に、楽しいショーを見せて頂いたり、散髪にも来て頂き豊かな暮らしを楽しめるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様の馴染みの医師、家族様の希望を大切にし、受診 が困難な利用者については、往診にて投薬して頂くなど支 援している。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を家族の協力を得 て継続して受診することができる。定期的にかかりつけ医 に往診をしてもらう利用者もあり、一人ひとりのかかりつ け医と連携が取れている。職員は利用者の健康状態を把握 して看護師に報告や相談を行い、家族に早めの連絡を心が けている。また、急変時には救急車を呼び職員が同行して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者様の変化は、小さな事でも看護職員に相談し、適切 な受診や看護が受けられるように支援出来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様が入院した際は、短期間で退院でき、安心して治 療が出来る様積極的に支援を行なう。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) どこまで支援できるか難しい問題ですが家族・医療関係者 と連携を図り、支援していくように取り組んでいる。	
			(外部評価) 「看取りの指針等」の作成はしていない。入居時に事業所 として対応できる内容を伝え、口からものを食べれなく なった場合や医療処置が必要な場合は、入居の継続が難し いことを利用者と家族に説明している。利用者の状態の変 化に応じて家族等と話し合い、対応することとしている。 事業所での看取りを希望する利用者や家族は少なく、医療 処置が必要となった場合は、入院を希望する家族が多い。 また、他の施設に移る場合は、相談に応じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、緊急訓練先を作成し非常事態にそなえている。応急手当はまだ完全とはいえない。これからDVDの積極的な視聴、学習をし学んでいく。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間・日中の想定をし訓練のパターンを作成し何度も訓練を重ねている。訓練の日は消防の方々や利用者様の家族様にご協力頂き、非常事態の場合は協力を仰げるよう体制を築いている。 (外部評価) 年2回、昼間や夜間の火災や地震を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力とアドバイスももらっている。地域住民には災害時の協力を継続してお願いしており、運営推進会議に近隣住民と民生委員が参加してもらえるようになったことから、協力を得られるようになった。地域の自主防災組織との連携は取れていない。前回の外部評価から、外の階段を増設し避難経路づくりをしている。	建物の構造上、夜間など職員だけでの避難誘導には困難や限界があるが、今後、事業所のリフォームを行う予定である。リフォームの際は専門家からアドバイスをもらったり、職員間で話し合ったりするなど、利用者の安心安全な暮らしを守るための改修に繋がることを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様への接遇を重視し言葉使いに十分配慮してコミュニケーションをとっている。 (外部評価) 利用者と個別の会話をする場合は、居室で1対1で話しをしている。日中はホールで過ごす利用者が多く、職員は利用者への声かけやトイレへの誘導などに気を付けて支援している。居室入口のドアには利用者の様子が確認しやすいよう透明なガラス小窓があるが、利用者からカーテン等をしてほしい希望は出されていない。事業所には接遇委員会があり、気になることは定期的に話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が訴えられたときは、本人様と話し合い本人様の意見が聞ける様環境作りを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合が優先される時がたまにあるが、利用者様のペースに合わせ無理なく毎日を過ごして頂ける様支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2か月に1回の割で散髪の機会を設けたり、利用者様が以前着られていた服を家族様が持って来て下さり着て頂いています。服を選ぶ時職員の都合で決めてしまうときがあるのでなるべく利用者様の意見も取り入れ選ぶようにしたい。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備は衛生面で職員が行っている。食事は利用者様の中に入り共に食事を摂っている。自立されている利用者様に洗った後の食器を拭いて頂き協力して下さっています。 (外部評価) 主菜と副菜は外注し、事業所内でごはんと汁物を調理している。半年前から毎月の誕生会や行事等に合わせて利用者の希望を聞き、事業所内で職員が食事を手づくりするようになった。職員は利用者と同じテーブルを囲み会話をしながら食事している。利用者は後片付けなど、できることを一緒に手伝っている。また、外食を取り入れたり利用者と一緒にたこ焼きづくりをしたりするなど、食事が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) うまく噛めない利用者様は細かくきざみ食べやすく工夫している。又盛り付けも工夫し食欲がそそられる様にしている。途中で箸が止まったり残された場合は、声掛けたり口へ運んだりして、なるべく多く召し上がって頂けるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後必ず声掛けを行い実施している。介助を必要とされている利用者様は介助をし、口腔内に残っている物はないかを確認をしている。義歯をされている利用者様はゆすいで頂き夜間はポリデントにて消毒を行っている。1週間に1回日曜日にハイターにてうがい用のコップ、歯ブラシの消毒を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンをつかみ、自力にて行かれる方は排泄後の確認。あいた時間が長ければ声掛けを行っている。介助を必要とされている利用者様は時間の間隔をあけ声掛け誘導している。 (外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、利用者に合わせた支援をしている。状態に応じて、夜間にはポータブルトイレやパットを使用している利用者もいる。夜間パット等をしている利用者にも、昼間はトイレ誘導を心がけている。1階の居室にはトイレが設置され、中にはカーテンを付けている。また、夜間に眠剤を飲んでいる利用者もいるが、時間毎に訪室し個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表にてチェックを行い、便秘をされている利用者様がおられる場合は便がおだやかに出るように薬を服用して頂いたり、ヤクルトやヨーグルトや牛乳を飲んで頂き解消して頂けるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の都合で日曜日や時間帯を決めてしまっている。利用者様の意思を尊重しコミュニケーションをとり、ゆったりと入浴して頂ける様なるべくしていきたい。 (外部評価) 夏は週3回、冬は週2回を基本として入浴できるよう支援している。散髪した利用者はその日に入浴してもらっている。利用者の羞恥心などに配慮し、同性介助を基本としている。湯船に利用者が浸かりやすいよう手すりを付け、安心して入浴してもらう工夫をしている。また、入浴が苦手な利用者には無理強いせず、時間をずらして声かけをしたり入浴日を変更したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、ホールにあるソファや利用者様の居室でゆっくり休んで頂いています。夜間眠れない時は、ゆっくりと休んで頂けるお薬を服用して頂き、朝までぐっすり休んで頂ける様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 自分で服用出来る利用者様には、声掛けて手渡し、服用した事を確認して、個々にチェックシートに記入している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に好みの事をして頂く様に心がけている。洗濯物やお茶碗拭き他毎日役割を持って行って頂いている。ラジオ体操やレク行事参加、外食等行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎朝、時間を決めて苑外散歩を3ユニット一緒に行っている。利用者様の希望に添って、ご家族様に協力して頂き外出、外食等行っている。 (外部評価) 天気の良い日は午前と午後の2回散歩に出かけ、近所の庭の花などを見て気分転換をしている。季節に応じて、花見や紫陽花祭り、外食を兼ねた湯ノ浦へのバスツアー、糸山公園などに家族の協力を得て出かけられるよう支援している。また、家族と一緒に買い物や外食などを楽しんでいる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所で預かっている。利用者様の希望があれば、ご家族様に連絡して買って来て頂いたり、購入していいか確認を取っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望ある時は電話連絡して話しをして頂いたり、面会に来て頂いたりして、希望をかなえらえるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホールの壁面に季節ごとの花、果物など折り紙で折ったり、切ったりして季節感を出している。台所は少々狭いので不便な時あり。 (外部評価) 共用のホールには季節を感じられる花や飾りつけをしている。1階と2階のユニット毎のホールの広さは違っているが、家具などの配置を工夫するなど利用者が過ごしやすい空間づくりをしている。利用者は好みの場所でゆっくりくつろいでいる。また、1階のホールでは、3ユニット合同でイベントを行うことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者様同志でホールで、色々話しをされたり居室へ行き来されたりして、話しが盛り上がる時がある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) その都度連絡して協力をお願いしている。使い慣れた物を使って頂いている。 (外部評価) 1階にある居室はトイレもあり広く、夫婦で入居している利用者もいる。2階には2ユニットあるため1階にある部屋より狭くなっている。居室には自宅から馴染みの家具や使い慣れたものを持ち込んでいる。壁には写真や利用者自身で作成した作品を飾るなど、一人ひとりに合わせた過ごしやすい空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) その都度個々の残っている力を出して頂くよう声掛け見守りしながら意欲を出して頂けるよう支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社エスエイサービス
事業所名	グループホーム恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の声をよく聞き、日頃の状態観察や表情観察にて気づきを持てるようスタッフ全員が意識しています。指示、アドバイスにも素直に応じ、利用者様の思いや、ご家族の思い、立場を理解し、相談に応じられるよう努めております。利用者様のできること、できないこと、できそうなことありますが、できることに関しては継続していこうという意識、できないことに関しては悪化防止、できそうなことに関しては一緒にチャレンジしていこうという意識で関わりをもっております。スタッフ全員に専門的な知識があるわけではないですが、勉強会や委員会の中で、統一したケア、利用者様、ご家族様の求めるケアができるよう情報の共有、周知、徹底し利用者様の喜ぶ顔、ご家族様の安心につながるケアをという気持ちで支援させていただいています。どなたでも、相談、訪問しやすい環境づくりを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では1階のホールを使用して七夕会やクリスマス会などのイベントを3ユニット合同で開催したり、大型バスなどを借りて毎月外出計画を立て花見に出かけるなど、理念を基にした利用者の笑顔ある日々の暮らしを支えている。管理者と職員は利用者の思いを大切に、利用者一人ひとりのできることや要望に沿った支援を心がけている。事業所には、小学生の職場体験や保育園児のお遊戯、歌や踊り等のボランティアの訪問があり、利用者は交流を楽しみにしている。職員がテーマを決めて毎月勉強会を開催したり、外部研修に参加したりしてサービスの向上に努めている。また、利用者の希望するかかりつけ医と連携を取った支援をしており、医療面での迅速な対応にも心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム恵須栄

(ユニット名) 栄ユニット

記入者(管理者)

氏 名 上野 こずえ

評価完了日 平成 26 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設当時のスタッフが考え作成されたものであり理念を共有でき実践につなげる努力をしている。 (外部評価) 理念は開設時に作成し、事業所名の「エスエイ」を頭文字にして分かりやすい言葉で表している。ホールの来所者からも見やすい場所に掲示し、ミーティングなどで職員間で話し合いをしている。管理者と職員は理念を共有して利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近辺の方とは、通勤時や利用者様との散歩の際にお互いが挨拶を交わすことができている。また、近辺の方で編み物をしに来てくださる方もおいでる。地域としては年1回、保育園児の訪問や、小学校の運動会、敬老会の案内をいただき、訪問している。秋祭りの頃には地域の神輿や獅子が訪問し、利用者様は楽しみとしている。 (外部評価) 近所を散歩する機会が多く、地域住民と挨拶を交わしている。小学生の職場体験を受け入れたり、保育園児の訪問によるお遊戯を利用者は楽しみにしている。小学校の運動会や敬老会にも利用者と一緒に参加している。秋祭りには神輿や獅子舞の訪問もあり交流をしている。歌や踊り、銭太鼓、フラダンス、編み物など多様なボランティアの受け入れもしている。	利用者が地域の中で暮らしていくためには、地域との交流は大切なことであり、公民館等からも地域の情報を多く得て、地域行事等に積極的に参加しさらに交流を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方とは認知症高齢者についての支援のお願いする機会、話し合いを持つ機会がなく、まだまだ理解や支援にむけての協力を促すことは困難と思われる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、奇数月の第3水曜日に開催しており、利用 者様やご家族様の参加にて意見を伺うことができている。 ただ、地域の方の参加は困難な状況で多彩なメンバーとは 言えない。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、介護相談員、病 院相談員、地域包括支援センターの職員等の参加を得て開 催している。会議は事業所の状況や行事報告を行うほか、 質疑応答をしている。会議のテーマは決めず、参加者の意 見を聞くよう心がけており、家族から出された質問等に答 えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 毎月1回、ユニット毎に訪問してくださる介護相談員の方 から情報や提案をいただける。市の職員様よりもメールや 電話、運営推進会議での提案をいただける。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、提案や助言をしても らっている。相談がある場合は電話やメールで気軽に問い 合せるなど連携をしている。市主催の介護支援専門員連絡 会の研修や会議に参加し情報を得ている。また、月1回介 護相談員が訪問し、利用者の話や相談に応じている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフは勉強会やユニットリーダーより身体拘束となる 具体的な項目について周知するようにしており身体拘束と なるような事例もない。拘束につながるのでは・・・とい う行為についてはその都度、話し合いをしている。	
			(外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルがあり、職員がテーマを決め 毎月勉強会を実施している。年1回身体拘束のテーマを取 り上げて行うほか、外部研修に参加し職員に伝達するな ど、理解して身体拘束をしないケアを実践している。玄関 の施錠はせず、利用者は自由に出入りすることができる。 外出しようとする利用者には他の利用者が話しかけてくれ たり、職員が見守りをして対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の虐待もあるということを念頭に置き処遇委員会を月に1回開き、言葉かけ、ケアのあり方等を話し合い、職員会や処遇会にて周知徹底できるようところがけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会にて日常生活自立支援や成年後見人制度を学び、当ホームの利用者様が活用されていることで円滑に利用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時には、事前を基本に十分な時間を持ち家族様の希望に耳を傾けた方の立場になって確認をできていると思われる。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ユニットリーダーや管理者が家族様からの意見、要望について伺う窓口となり、他のスタッフも家族様が話しやすい雰囲気作りができています。また、家族様からの相談、要望においては、リーダー会や、職員会にて検討し、対応できるよう心がけている。	
			(外部評価) 訪問時や運営推進会議等を利用して家族から意見を聞いている。利用者の健康状態を電話で報告し、意見を聞いたり相談をすることもある。出された意見は職員間で話し合い迅速に対応している。対応できない内容は管理者から代表者に伝えている。恵須栄便りを2か月に1回発行し、利用者の日々の暮らしを伝え、家族から行事の問い合わせもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 当ホームの運営で大切なことは、職員会や運営推進会議等でも知り得ることができ、その場等で意見については代表者、管理者は働く意欲が向上できるような対応に努めており、代表者はその報告において理解、反映する努力をしてくれている。 (外部評価) 管理者は職員が話しやすい環境づくりに努めている。ユニット内のミーティングでリーダーに意見を伝え、職員間で話し合いを行い、必要に応じてユニットリーダー会など管理者や代表者に伝える仕組みができています。また、事業所内には安全環境委員会と接遇委員会等があり、職員間で意見を出し合っている。職員は事業所負担で外部研修に参加することができ、職員会議で研修報告をしている。また、自主的に研修に参加する職員もおり、スキルアップとサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各スタッフが向上心が持てるよう、毎月、自己評価表を提出し、自己の取り組みに役立てることができており、その評価もされている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、スタッフの勉強会を行ない、いろんな知識を身につける機会をもち向上できるような場面作りがされている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 利用者様を介しての交流はできていると思われるが、スタッフ間では交流できていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期に出来ているとは言い難いが他事業所の職員やご家族様、介護支援専門員と情報を共有した上で、利用者様の要望等に答えられるようにしている。それが難しい方に対しては日頃の言動や表情観察にて関係性を深めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 前述のように初期では困難である。面会等でお会いする機 会があれば時間の許すかぎり、ご家族様の意見を伺い、現 場に反映しようと努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) サービスとしてできる支援とできない支援との説明を行な い、段階的な支援ができるようその方法をユニットリー ダーや看護師を含め話し合うように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者様の経歴や性格等を鑑みて個別化した関係性を築け るようにしている。利用者様が話しやすいよう、尊厳のあ る暮らしができるよう意識し取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が面会にこられた際には、なるべく本人様と向き合 える時間を設けてもらい、家族ならではの絆を再確認して もらっている。家族あつての介護であることを理解してい ただき利用者様を支えるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ほとんどの利用者様にとっての馴染み・・・の把握は出来 ていないと思われるが、ご家族様からの協力も得て、関係 継続できる方においては訪問していただいたり、外出など の支援ができていると思われる。 (外部評価) 知人や友人の訪問は少ないが、快い対応をしている。家族 と個別に外出する利用者多く、お墓参りに出かけたり馴染 みの店に買い物等に行ったりしている。月1回美容室の訪 問があり、馴染みの関係ができています。事業所内のイベン トは3ユニット合同で行うことが多く、利用者同士の新し い馴染みの関係ができてきています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様の性格や生活環境など考慮し、食事の際の席や、レクリエーション活動時のスタッフの配置を工夫している。利用者様より自然と相手を思いやるような発言を聞くこともある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者様のサービス終了後でも、相談や支援に応じる姿勢をもち、移り住まれる事業所にもご本人様の性格や習慣、好み等ケアのあり方について必要な情報の提供ができるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様、ご家族様の希望、意向を伺い、スタッフ側の視点でのケアにならないよう努めている。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員を決め、日々の暮らしの中で利用者の思いや意向を聞くよう努めている。思いを言い表すことが難しい利用者には、家族から情報を聞いたり表情や行動から判断するようにしている。新たに得た情報は申し送り事項にメモを残し、職員の押印で確認し情報を共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者様が自分らしく生活できるよう、その支援ができるよう可能な限りの情報収集に努め、思いや望みを理解できるようスタッフ間で話し合い取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 定期的に処遇会、委員会を開催し一人一人の利用者様の現状把握が全スタッフにわかるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族様や主治医、ケアマネージャーとの連携を図り、本人の意向を踏まえたうえでの計画作成に至っている。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映し、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。利用者の健康状態や介護計画の変更がある場合には、家族と電話等で話し合いその都度介護計画を変更している。介護計画に沿った日々の実践記録を残し、利用者毎の担当者が月1回モニタリングをしている。利用者の状況はユニット間で共有して支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の記録においては、一日の様子、受診状況、服薬状況、面会等、記録に残し、特記と思われることを含め、朝礼、夕礼で申し送りをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様の現状に合わせたケアは試みることができていても、事業所として限られたメニューとなりがちであり、柔軟かつ多機能化とは言えない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員や、地域内のボランティアの訪問は定期的にあるが、これより他の資源としてどのようなものがあるか、把握、活用することができていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様やご利用者様が信頼し、かかりつけとなっている医療機関はもちろん、受診希望される医療機関には受診依頼書や、電話連絡にてスムーズに受診できるよう連携を図っている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を家族の協力を得て継続して受診することができる。定期的にかかりつけ医に往診をしてもらう利用者もあり、一人ひとりのかかりつけ医と連携が取れている。職員は利用者の健康状態を把握して看護師に報告や相談を行い、家族に早めの連絡を心がけている。また、急変時には救急車を呼び職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 受診時や往診時の様子を踏まえ、日々の利用者様の様子や意向を伝え、その都度の解決にて、より良いケアに繋げることができている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様が入院となった場合は、病院の医療連携室やソーシャルワーカー等を通じて情報提供書の提出や電話連絡を行ない、状況把握、退院に向けての対応をしている。運営推進会議にも参加いただいている相談員あり。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 実際にそのような場面には遭遇していないが、利用者様の意向、ご家族の思いを理解し、安心していただけるような対応をしていく必要があると思われる。 (外部評価) 「看取りの指針等」の作成はしていない。入居時に事業所として対応できる内容を伝え、口からものを食べられなくなった場合や医療処置が必要な場合は、入居の継続が難しいことを利用者と家族に説明している。利用者の状態の変化に応じて家族等と話し合い、対応することとしている。事業所での看取りを希望する利用者や家族は少なく、医療処置が必要となった場合は、入院を希望する家族が多い。また、他の施設に移る場合は、相談に応じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 現在までにそのような場面に遭遇していないが毎月の勉強会や、消防署による、実際の処置法の講義、DVDによる自己学習に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 義務付けされている避難訓練は行っているが歩行が困難な方、不穏状態になり得る方がいる中で、訓練通りに避難できるとは言いづらいが、民生委員も含め、地域の方には協力を仰げるよう体制を築く必要がある。 (外部評価) 年2回、昼間や夜間の火災や地震を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力とアドバイスももらっている。地域住民には災害時の協力を継続してお願いしており、運営推進会議に近隣住民と民生委員が参加してもらえるようになったことから、協力を得られるようになった。地域の自主防災組織との連携は取れていない。前回の外部評価から、外の階段を増設し避難経路づくりをしている。	建物の構造上、夜間など職員だけでの避難誘導には困難や限界があるが、今後、事業所のリフォームを行う予定である。リフォームの際は専門家からアドバイスをもらったり、職員間で話し合ったりするなど、利用者の安心安全な暮らしを守るための改修に繋がることを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇を意識した声かけ、ケアのあり方について、接遇委員会を設置し、毎月、話し合いを持っている。職員会議の中で決定事項や、注意点、改善策について、話している。また、毎月の自己評価にて職員一人一人、自身のチェックをしている。 (外部評価) 利用者と個別の会話をする場合は、居室で1対1で話しをしている。日中はホールで過ごす利用者が多く、職員は利用者への声かけやトイレへの誘導などに気を付けて支援している。居室入口のドアには利用者の様子が確認しやすいよう透明なガラス小窓があるが、利用者からカーテン等をしてほしい希望は出されていない。事業所には接遇委員会があり、気になることは定期的に話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴後の衣類や、食事の食べる順番など利用者様が決められるような声掛けの仕方、場面作りを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各委員会や、職員会で常に利用者様優先であること、スタッフの都合のケアにならないよう話し合っている。ただ、時間帯や、職員の数により、こちらの都合になっていることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性なら使い慣れた化粧品や、整容道具、男性ならひげそりなど身だしなみを整えるものとしてご家族様の協力にて準備していただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや、下前、簡単な調理はできる利用者様の手伝いをお願いしている。食後の食器拭きや片付けも積極的にされる方が決まってきたが、ほぼ毎日行われている。 (外部評価) 主菜と副菜は外注し、事業所内でごはんと汁物を調理している。半年前から毎月の誕生会や行事等に合わせて利用者の希望を聞き、事業所内で職員が食事を手づくりするようになった。職員は利用者と同じテーブルを囲み会話をしながら食事している。利用者は後片付けなど、できることを一緒に手伝っている。また、外食を取り入れたり利用者と一緒にたこ焼きづくりをしたりするなど、食事が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 炊飯と汁物、野菜の和え物や、フライもの、麺類は各ユニットで調理しているが、主菜、副菜において外注しており真空パックにて衛生面に配慮されている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後行っており、口腔内も意識して観察している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、日中、夜間ともに定時以外の随時的なトイレ誘導、排泄介助を行っている。テープ式の紙おむつの使用者はおらず、トイレを使用しての排泄介助である。 (外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、利用者に合わせた支援をしている。状態に応じて、夜間にはポータブルトイレやパットを使用している利用者もいる。夜間パット等をしている利用者にも、昼間はトイレ誘導を心がけている。1階の居室にはトイレが設置され、中にはカーテンを付けている。また、夜間に眠剤を飲んでいる利用者もいるが、時間毎に訪室し個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 緩下剤等の薬剤に頼ることなく、毎日、排便チェックし、水分や食品で、なるべく自然排便に繋がるよう心がけているが、どうしても時は主治医の指示通りの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間帯を決めている。体調面に留意しながら適切な入浴時間や、洗身、洗髪介助しながら1対1のコミュニケーションを楽しんでいる。まれに利用者様より、入浴介助者の指名があり、対応することもある。拒否のある場合には無理強いせず、時間を置いたり、日にち変更をする。 (外部評価) 夏は週3回、冬は週2回を基本として入浴できるよう支援している。散髪した利用者はその日に入浴してもらっている。利用者の羞恥心などに配慮し、同性介助を基本としている。湯船に利用者が浸かりやすいよう手すりを付け、安心して入浴してもらう工夫をしている。また、入浴が苦手な利用者には無理強いせず、時間をずらして声かけをしたり入浴日を変更したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息はフロアでも居室でも自由にしていただいている。自ら訴えることが困難な利用者様には表情や、態度にて、スタッフが判断し、声かけ、介助にて休んでいただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師やユニットリーダーはほぼ把握しているが、把握できていないスタッフもいる。お薬手帳や、処方箋等で確認し、周知していく必要あり。服薬においては、飲み込みまでの確認を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様はもちろん、ご家族様の意向も伺い、ホームの中でできること、楽しみとして持てる役割や、趣味が続けられるよう場面作り、機会作りをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 時間帯は決まってしまうが、屋外散歩や日向ぼっこ、毎月の全体行事、季節のドライブ、買い物等の支援をしている。家族様にも積極的な外出の機会をお願いしている。 (外部評価) 天気の良い日は午前と午後の2回散歩に出かけ、近所の庭の花などを見て気分転換をしている。季節に応じて、花見や紫陽花祭り、外食を兼ねた湯ノ浦へのバスツアー、糸山公園などに家族の協力を得て出かけられるよう支援している。また、家族と一緒に買い物や外食などを楽しんでいる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在ほどの利用者様もお金の所持、管理はされていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホームに届いた手紙は、その都度、利用者様にお渡しし、返事を書かれるかどうか、電話をかけられるかどうかお伺いし対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 普段の憩いの場となるフロアでは音楽をかけてみたり、玄関や洗面台に花をかざったりしている。季節感のある壁画を創作することもある。定期的に消毒、喚気、清掃している。 (外部評価) 共用のホールには季節を感じられる花や飾りつけをしている。1階と2階のユニット毎のホールの広さは違っているが、家具などの配置を工夫するなど利用者が過ごしやすい空間づくりをしている。利用者は好みの場所でゆっくりくつろいでいる。また、1階のホールでは、3ユニット合同でイベントを行うことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事の際のテーブル以外は利用者様の自由に移動されている。ソファでくつろぐ姿もみられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は利用者様、ご家族様の自由に配置していただきしており、馴染みのものを持ち込まれている方もいる。 (外部評価) 1階にある居室はトイレもあり広く、夫婦で入居している利用者もいる。2階には2ユニットあるため1階にある部屋より狭くなっている。居室には自宅から馴染みの家具や使い慣れたものを持ち込んでいる。壁には写真や利用者自身で作成した作品を飾るなど、一人ひとりに合わせた過ごしやすい空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子や歩行器使用の利用者様が使用しやすい機能的な洗面台、トイレ、風呂場とは言えないが、不便ながらも、利用者様のできることを考え、自立支援を意識している。	